

「車体小僧_私の車体小僧振りを振り返ります」雑感

30年の長きに渡り、車体製造に携わって来ました。車体小僧と名乗って見たくなりました。父は戦後鉄工所を起し、物造りが好きと言うよりは、家族を養うための起業だったのですが、私は偶々自動車製造会社に入社し、車体製造関係部署に配属になってしまって、30年が経過したということでしょう。しかし終始一貫を貫けたのは、物造りが性に合っていたのでしょう。新車を世に出す（モデル設計段階からオフラインさせ、昼夜二直の生産を見届ける）仕事に、何とも言えない幸せを毎回感じたものでした。それを海外展開までできたのです。

車体製造工程は部品を造るサブとボディを造るメインが有ります。最初はサブから入りました。何しろ数が多かったものですから、設備が故障すると、メインの足を引っ張ることになり、随分と上司からお叱りを受けたものです。品質上の問題を起せば、対応に追われっぱなしになります。幸い大きな出来事は回避でき、有難いことでした。メインの仕事もやるようになり、全ての工程を経験でき、自信を持ったものでした。

海外との付き合いは会話ができなければ仕事になりません。スペイン語、英語と訓練させられました。ネイティブのヒヤリングは難しいものです。会話は話す事が無ければ、黙っているだけで、上達しません。自ら話題を見付ける努力が必要です。

今も新車はどんどん世に出て来ております。今の車体小僧はどんな苦労があるのだろうかと思案しながら、この項を終わります